

# アンケートでわかるDB課題と展望

サイオステクノロジー株式会社  
イノベーティブソリューション事業企画部

村田 龍洋

# 講師紹介

---

## - 講師紹介

Name : 村田 龍洋

Company : サイオステクノロジー株式会社

Dept : イノベーティブソリューション事業企画部

## - Task

2002年 サイオステクノロジー（当時のテンアート二）に入社

ハードウェア部門、Linux/OSSサポート部門を経て、現在の事業企画へ

AWSパートナー契約やNGINXパートナー契約を担当、OSSよろず相談室の企画・運営を経て

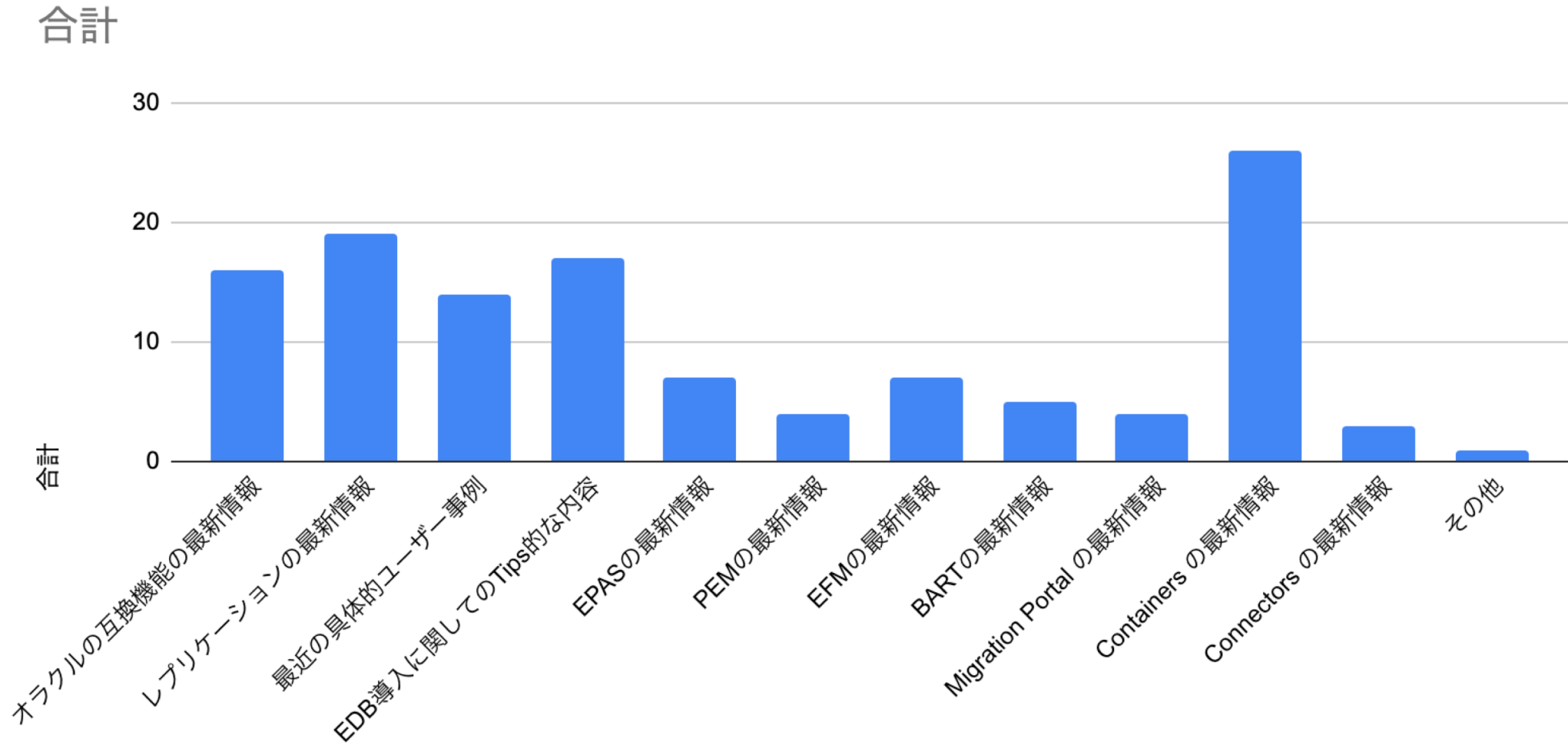
現在はエンタープライズ向けのOSSサブスクリプション製品

（EnterpriseDB, Red Hat, NGINX）の事業企画を担当

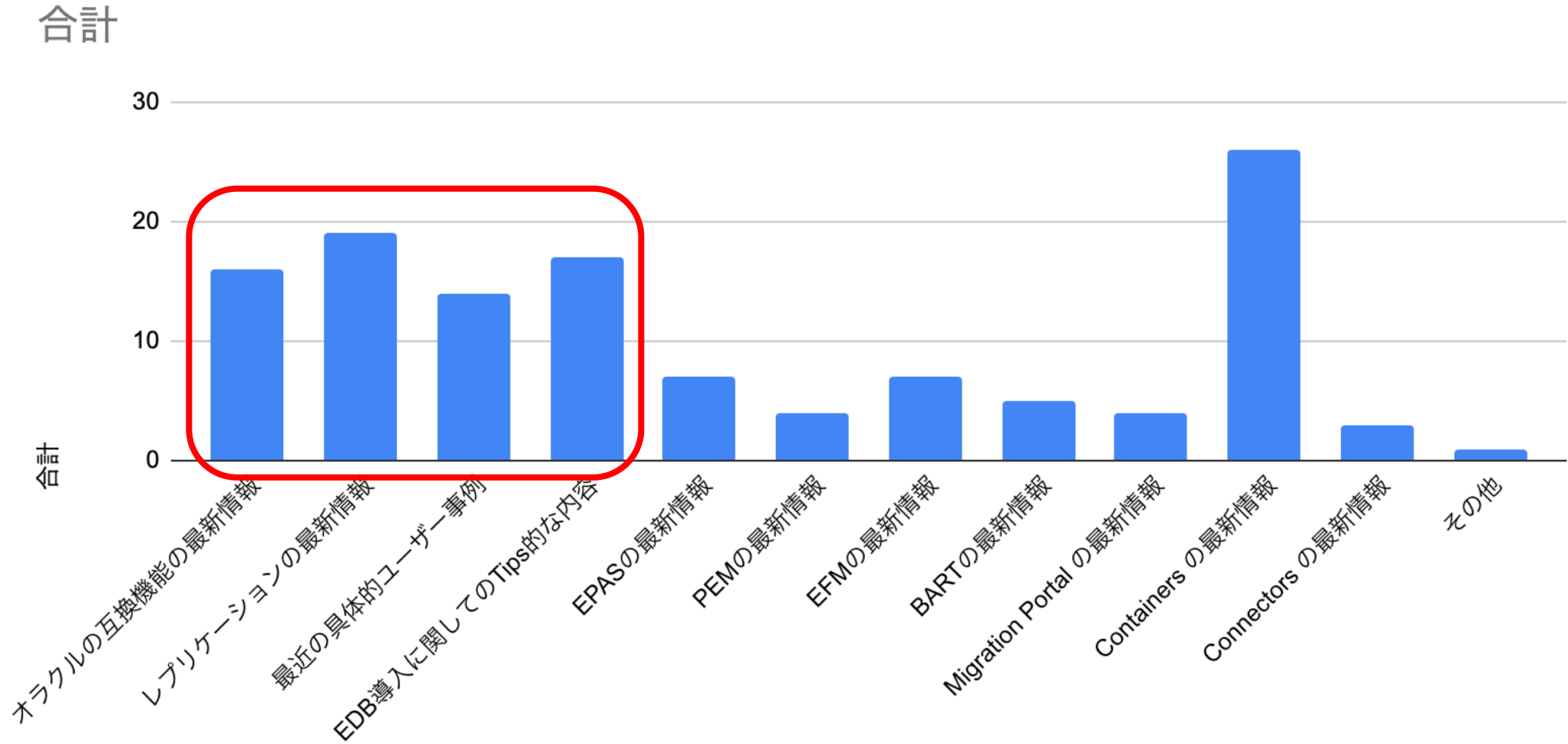
IaC活用研究会 運営メンバー

[container.sios.jp](https://container.sios.jp) | SIOSDX –コンテナの窓口– を開設

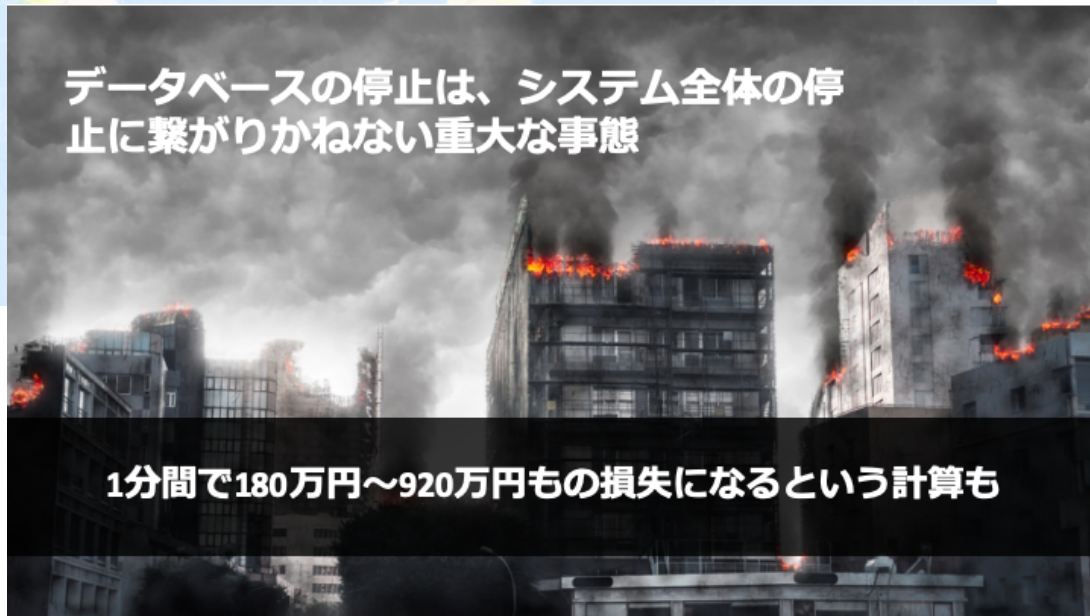
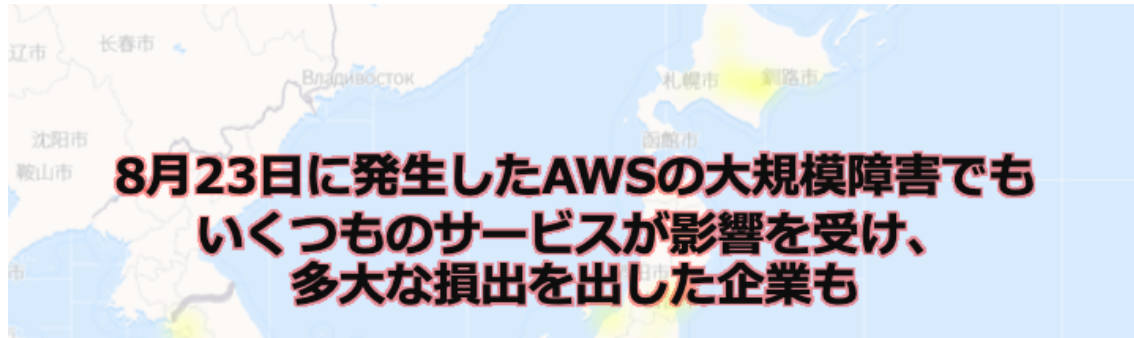
# 期待するWebinarコンテンツ (過去4回集計)



# EDBソリューションの機能やTipsへの関心



# 反響の大きかったクラウドサービスの大規模障害



	Auto Recovery	監視ツール + 手動再起動	バックアップ	当社ソリューション
障害の自動検知と自動復旧	△ (アプリの障害は検知不可)	△ (復旧は手作業)	×	○
別のAZで復旧	×	×	△ (対策が必要)	○
RPOとRTOの短縮	△	△	×	○ (理論上最も早い復旧が可)

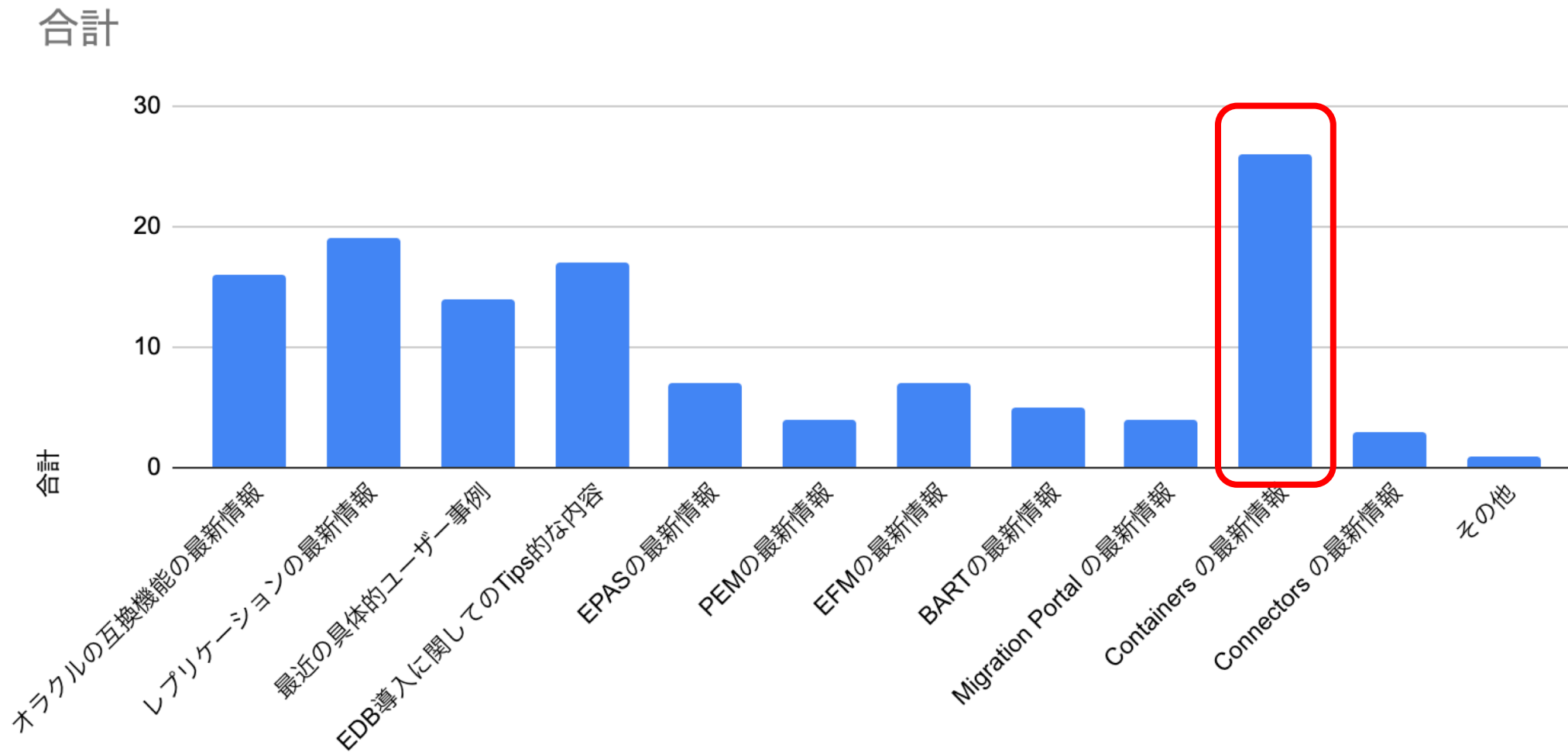
<https://bcblog.sios.jp/4tips-of-troubleshooting-on-aws-azure/>

## HA構成のレベル分け

	バックアップ	ローカル・サイトのHA		DR
		Postgres-HAクラスタ	障害の許容台数	
ブロンズ	Yes BARTを用いたポリシー・ベースのバックアップ	No	N/A	No
シルバー	Yes BARTを用いたポリシー・ベースのバックアップ	Yes EFMを用いた、master-slave構成	1	No
ゴールド	Yes BARTを用いたポリシー・ベースのバックアップ	Yes EFMを用いた、master-slave構成	2	No
プラチナ	Yes BARTを用いたポリシー・ベースのバックアップ	Yes EFMを用いた、master-slave構成	>2	Yes リモート・サイトを含めたmaster-slave構成

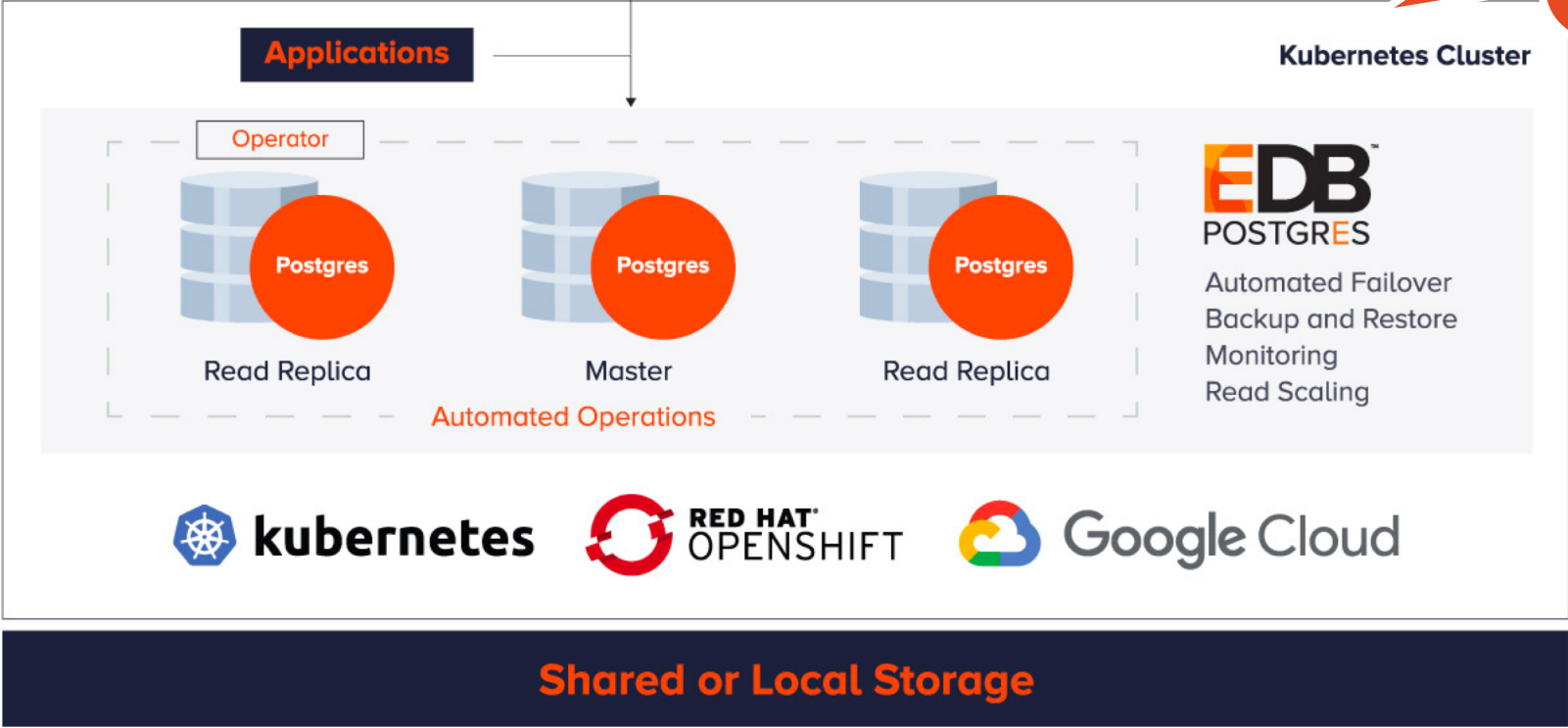
<https://edbjapan.com/blog/ha-best-practice/>

# 増加するDXへの期待



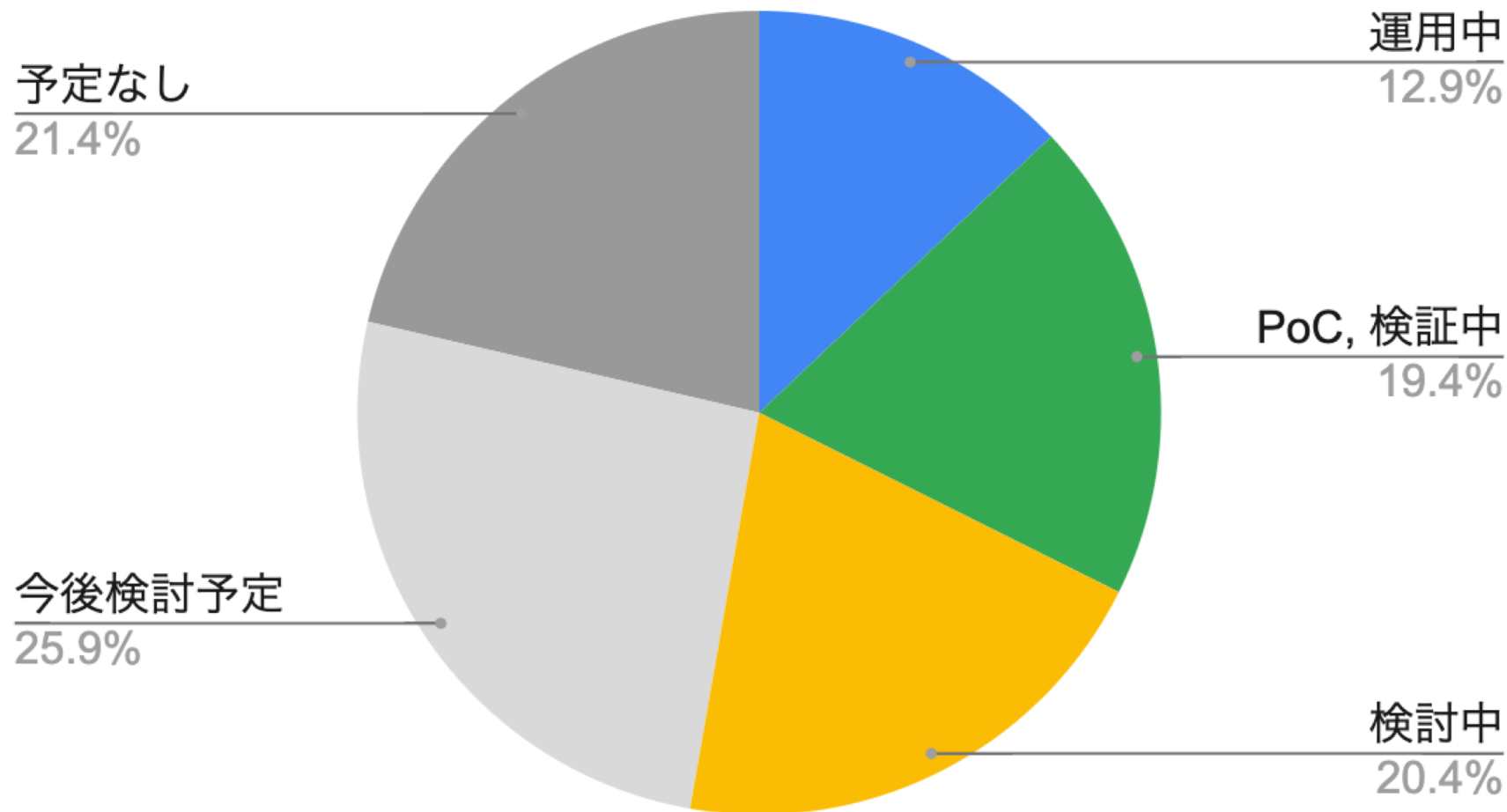
# EDB Postgres on Kubernetes

エンタープライズでのキーワードは  
**Operator**  
**Red Hat OpenShift**



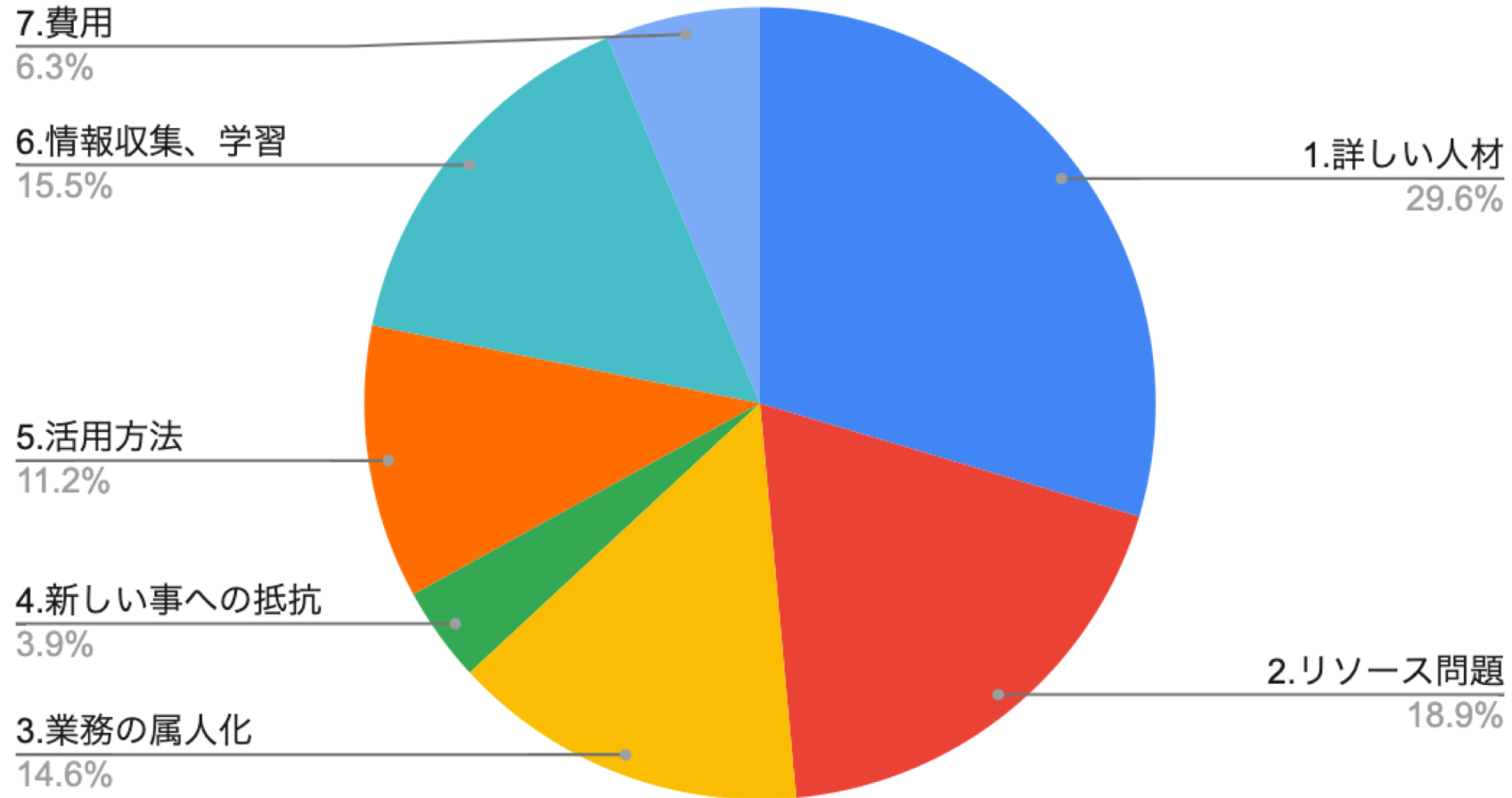
# Red Hat Forum 2019会場内アンケートより

Kubernetesのご利用状況、ご検討状況をお教え下さい。 N=309

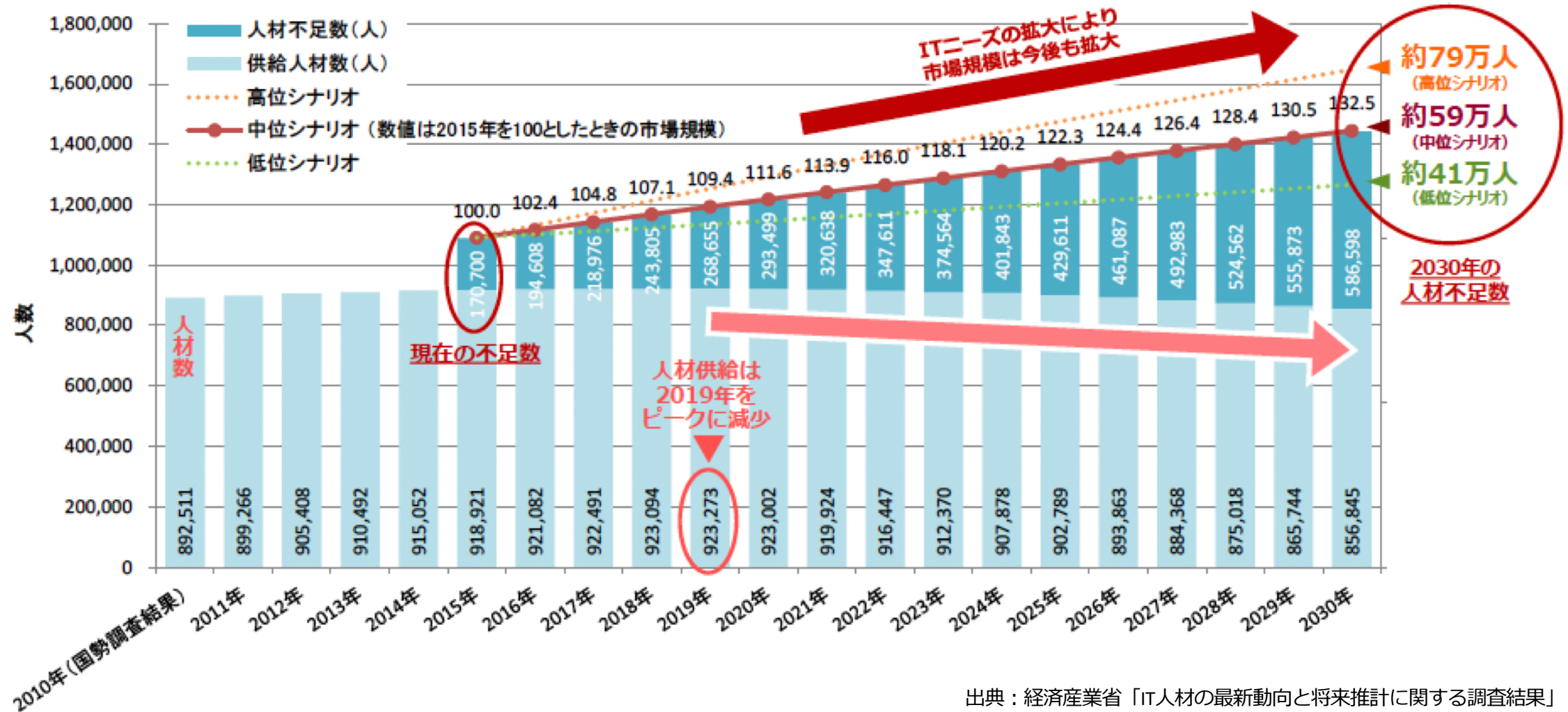




## Ansibleを取り組む上での課題 (N142)



# ITエンジニアにおける2020年問題



# 2020年のポイント



1. DX対応のソリューション選定
2. 障害対策、高可用性の設計
3. サブスクリプションモデルの更なる拡大

SIOSは引き続きEDB社と連携して皆様が必要とする情報を提供しつづけます。